

平成 25 年度 SEC 国内見学会報告

恒例の SEC 国内見学会が 10 月 4 日、快適な天気恵まれ仙台で行われました。今年の訪問地は、仙台新港の仙台市ガス局港工場と石油資源開発㈱仙台パイプライン事業所／東北天然ガス㈱仙台操業センターです。参加者は SEC 賛助会員 14 社、本部賛助会員 2 社合計 36 名と協会の前野専務理事以下 7 名で、合計 43 数名でした（集合写真参照）。

仙台市はご存じのように宮城県の県庁所在地、人口約 100 万人の東北地方の大都市緑豊かな「杜の都」ですが、2011 年東日本大震災の沿岸部を中心とした甚大な津波被害は記憶に新しいことと思います。

12 時過ぎに仙台駅を出発、楽天の優勝で盛り上がる K スタ宮城付近を抜け、バスは一路仙台バイパスを走り 30 分程で仙台新港（正式には仙台塩釜港仙台区）に到着しました。仙台市ガス局港工場と石油資源開発㈱仙台パイプライン事業所／東北天然ガス㈱仙台操業センターは、仙台新港北航路の西側に隣接して位置しています。

一行は、2 班に分かれて、各事業所を訪問しました。

仙台市ガス局港工場では、一般見学者向けの PR ビデオの後、被災状況をパワーポイントで説明を受けました。仙台市ガス局港工場は、原料をマレーシアからの液化天然ガス (LNG) と、石油資源開発㈱の「新潟・仙台天然ガスパイプライン」からの気体で調達し、供給戸数は約 36 万戸と約 80 事業者の大口契約があるそうです。2011 年東日本大震災時は、当日に操業停止に陥りましたが、「新潟・仙台天然ガスパイプライン」からの気体供給を受け、震災 11 日後にはガス供給を再開したそうです。この片肺操業は、11 月末の外航 LNG 船の受け入れ再開まで続いたそうです。その後、バスで構内見学。車窓から LNG 船のバース施設、LNG 地下式貯槽、気化器、地上の 10 万 m³ 球形ガスホルダー（写真上段左参照）等の説明を受けました。バース施設に表示されていた浸水の痕跡高の高さに大変驚きました。LNG 貯蔵タンクは盛り土のおかげで浸水を免れたとのこと、不幸中の幸いと思いました。

その後、隣接する「新潟・仙台天然ガスパイプライン」を管理している石油資源開発㈱仙台パイプライン事業所／東北天然ガス㈱仙台操業センターを訪問しました。ここでも大震災による被害状況の説明を受け、事業所事務所内を見学しました。新しい事務所は、地震はもちろん津波への備え万全の要塞のようでした。最上階の避難室（写真上段右参照）を見た時は、どうか使われることがないようにと思いました。

ご説明くださった皆様は、大震災に打ち勝ち現在立派に操業しているという自信と気迫が感じられたものです。

2 班に分かれていた我々はガス局港工場正門付近で合流し、記念の集合写真を撮影して、見学会は無事終了いたしました。

夕刻、同じく仙台新港の麒麟麦酒株式会社の工場内にある、オープンカフェ風レストラン「キリンビアポート仙台」に場所を移し、意見交換会／懇親会を行いました。会場では各種ビールを楽しみつつ、各社代表の挨拶（若者のスピーチもあり新鮮でした）や名刺交

換に盛り上がり、中村所長の一本締めでお開きとなりました。

仙台新港一帯事業者のさらなる復興を願いつつ、バスで仙台新港を後にしました。

最後になりましたが、ご多忙の中快く見学を受け入れていただいた、仙台市ガス局港工場と石油資源開発(株)仙台パイプライン事業所／東北天然ガス(株)仙台操業センターの皆様
に厚く御礼申し上げます。(勝山 記)



左：港工場的气体ホルダー、右：操業センター事務所の避難室



参加者集合写真